令和元年度　第２回鹿屋市子ども・子育て会議　会議録（要点筆記）

開催日時	令和元年８月７日（水）13:15～15:30	
開催場所	鹿屋市役所議会棟３階全員協議会室	
委員出欠	出席委員 17 名	森委員、鮫島委員、立切委員、山口（か）委員 山口（な）委員、西之原委員、吉﨑委員 軀川委員、濱上委員、新川委員、有川委員、清水委員 田木委員、馬場委員、渡邉委員、末吉委員、吉永委員
	欠席委員 10 名	朝野委員、安藤委員、岩本委員、エルメス委員、寳滿委員 柳元委員、岡留委員、福元委員、宮下委員、内野委員
事務局及び関係部課出席者	中津川保健福祉部長、枦木子育て支援課長、井料課長補佐、 堀田係長、下假屋係長、堂地係長、下小野田主査、 吉永主任主事、繁昌主任主事、髙柳主事 （福祉政策課）矢野主査 （健康増進課）加世田主幹 （教育総務課）柿内補佐 （学校教育課）安藤課長 （生涯学習課）新保主任主事	
傍聴者		

【１　開会】
【２　報告】
（１）　令和元年度第１回子ども・子育て会議　会議録の報告

【３　議事】
（１）　第２期鹿屋市子ども・子育て支援事業計画の素案骨子構成内容について
（２）　「教育・保育提供区域」の設定について

（委員）
　１期が終わった際のアンケートで、区域について自由筆記に何か意見はなかったか。意見があるのなら反映させたほうがよい。
〔　後日回答する。〕

（３）　「量の見込み」と「確保方策」について

（委員）
　人口推計について、児童の人数が大きく減少するのは、行政の子育て支援があまり良くないのではと感じざるをえない。子どもが減ることは危惧すべきことなので、今後行政と保育会とで協力していく必要があると思う。また、量の見込みについて、アンケートの結果だけでニーズを計っていいものか疑問。２年後くらいに計画を見直す予定はあるのか。
〔　人口減に関しては我々も危機感をもっている。このことについては、鹿屋市の施策の問題ではなく、全国的な傾向であり、県も同傾向にある。その中でも、鹿屋市は県全体で見ると子どもの比率は多い方である。前回あった県の調査でも、鹿屋市は子どもの数を維持しており、上位にいることから、鹿屋市の子どもが少ないわけではないということを御理解いただきたい。今後も、皆さんと協力し合っていきたいと考えている。

計画については、令和４年度に見直す必要があると考えている。〕

（委員）
母子手帳の発行数も参考にして今回の数字は出してあるのか。
〔　令和２年から令和６年の人口推計に関してはライフパシフィックに依頼している。〕
〔　今回の調査結果は、国が示した手引書に従い算出している。〕
〔　市独自でも人口推計を計算したが、今回の人口推計結果と数値にそこまでの差はない。今後、子どもを増やすためにあらゆる施策を打っていかないといけないと考えている。〕

（委員）
鹿屋市も合併で地域が広くなって子どもの数も変わってきている。５年後の変化を見て政策を打っていかないといけない。児童クラブに関して、現在１号から３号認定を受けている子どもたちが数年後には小学生になることを考えると、今回の結果で出ている児童クラブのニーズは少ない気がする。児童クラブがもっと整備されていけば、利用者数も増えてくるのではないか。実際に児童クラブ未設置の小学校区が５箇所ある。これから預けたいという保護者は潜在的にいる。そこに対応していくためにも５カ年計画にて、環境を整えてほしい。
また、国からは小学校の空き教室を活用するようにとあるが、鹿屋市はできていない。国及び県も小学校活用の方針であるため、鹿屋市も検討してほしい。
また、10 月から始まる無償化に関して、保育施設だけでなく児童クラブの保護者負担金についての補助も検討してほしい。
〔　児童クラブ未設置校区について、学校を活用した寺子屋を東原小学校で、来年度からは西俣小学校や鶴峰小学校で実施予定。児童クラブの保護者負担金については要望として今後検討していきたい。〕

（委員）
寺子屋は児童クラブと内容は一緒なのか。平日の放課後は毎日あけているのか。
〔　寺子屋は、週に１回の学力向上を目的としたものであり、児童クラブとは扱いが異なる。〕

（委員）
寺子屋は児童クラブの受け皿にはならないのか。
〔　受け皿にはならない。〕

（委員）
小学校は夏休みに入っている。小学校の空き教室を利用した預かり保育も参考にしてほしい。

（委員）
数字を見ていくと、今まで保育園が足りないイメージだったが、今後は保育園が余る可能性があることに驚いた。どこに向けてニーズ調査をしているのか不鮮明。この先人口が減っていくのなら、どこの年度に向けて量の調整をしていくつもりなのか。このまま枠だけ広げても、ある年から、子どもが減ることでつぶれてしまう保育施設も出てきてしまうのではないか。また、子育て世代というのは０歳から５歳の子どもがいる世帯だけでなく、小学生の子どもをもつ世帯もそうであるのだから、もっと広く意見を聞くべきではないか。
〔　昔よりも社会進出によって働く世帯が増加し、保育ニーズも増えている。市も毎年保

育施設と協議して定員を増やしているが、無償化によってどう変化していくのかは不透明である。現在は、預け先を確保しようと拡大しているピークにある。弾力運用で120%までの保育を可能として枠を広げているが、今後保育ニーズが低くなって枠が余っていくのではないかという懸念もある。今は変化に対応しながら、５年間で見直していこうと考えている。〕

（委員）

企業主導型との連携はどうなっているのか。

〔　企業主導型は認可外の位置づけである。資料１の14ページに認可外や企業主導型の数値があり、鹿屋市での利用者の推計として出している。〕

（委員）

今年度から二極化が進んだ。０歳児についても全体的に少なくなってきている。定員に対して、入所する児童が少ないように感じるし、ニーズに対して定員が多い保育施設もあるが、定員減は潰れるリスクがあるので難しい。入所児童確保のために遠方へバスを出している園もある。人口の変化に対応しての定員減も考えて、鹿屋市全体としての調整が必要である。企業主導型は、人数の設定をしているところからはみ出してできている印象がある。この状況は危惧すべきである。企業主導型の設置について抑止力はないのか。

〔　定員減や弾力運用の見直しをどこかの時点でしていこうとは考えている。施設との協議の中で調整していきたい。企業主導型については、国の政策で増えているので、市が計画に盛り込んだり規制したりすることはできない。〕

（委員）

児童デイサービスも企業主導型と同じような印象。企業が保育ニーズに目をつけているなと感じる。野放し状態である。保育士の確保もそういったところに取られている。ちゃんとした施設なのかも疑問である。

（委員）

量の見込みについて、障害児の数は入っているのか。養護学校では生徒が増えている。

（委員）

肝付町等の養護施設のない外部から、施設を求めて流れてきているのではないか。

〔　障害児については、福祉政策課の施策でも対応している。今後も、子育て支援課と福祉政策課で連携して取り組んでいきたいと考えている。〕

（委員）

地域的な意見も聞いて確保方策を練っていってほしい。様々な施設の状況を見て、もう少しきめ細やかに計画をつめていってほしい。

〔　10月からの無償化等で実際の保育ニーズが変化していく可能性もあるので、今後とも調査等の協力をお願いする。〕

【４　その他】

〇今後の会議の日程について

（委員）

他の会議では、いくつかの日程候補の中から都合の良い日を選ぶ方法をとっているところもある。なるべく多くの人が参加できるように工夫してほしい。

（委員）
　時期にもよるが、日程については１ヶ月前くらいには教えてほしい。
〔　正式な出席依頼ではなく、日程の連絡を１ヶ月前に皆さんにするという方法で対応したい。〕

○幼児教育無償化について
（委員）
　肝付町ではこれまでも無償化していたこともあり、無償化を拡大して給食費も補助を出すこととしている。鹿屋市も他の予算等で給食費の無償化に対応してほしい。

（委員）
　保護者の中には無償化についてかなり勘違いしている方が多い。すべてが無償になるわけではなく、保育の必要性のある方のみが対象であることをもっと丁寧に説明していくべきではないか。

○新たな子育て支援施設について
（委員）
　小学３年生までが対象のようだが、それ以上の子どもも利用できるのか。
〔　いまのところは新生児から小学３年生までの児童及びそのきょうだいの利用を想定している。〕

【５　閉会】

※〔　〕は事務局及び関係部課の回答。